

第7回 川越町総合計画審議会 概要

1. 大塚会長あいさつ（要旨）

本日で総合計画審議会は最終回となる。8月には基本計画の集中審議を行い、時間をかけて深く議論をするなど総合計画がまとまってきた。その後、パブリックコメントを実施し、町民からも意見をもらい、それらを基に総合計画（案）を取りまとめができた。

これまでの審議に感謝を申し上げるとともに、答申に向け、本日も引き続きよろしくお願ひしたい。

2. 議事

1) 第7次川越町総合計画（案）のパブリックコメントについて

Q：一般ごみと埋立ごみの統合についての町の考え方で理解できない部分があり、教えていただきたい。国のプラスチック資源循環戦略は、ペットボトルを指しているのか。容器トレイなどの発砲スチロールのことなのか。

Q：川越町の人が、四日市のごみステーションに捨てていると聞いたことがある。四日市では指定の袋でなくてもよく、スーパーの袋でも捨てられるため、持ち込まれている。町の指定ごみ袋の単価が高い、発行枚数が少ないので、仕方ないところもあるが。

Q：川越では分別して集めているが、結局は四日市の焼却場で一緒になって焼却していることも納得がいかない所がある。また、体積が1.3～1.5倍になったのはペットボトルが入ったことで大きくなったこともあるかと思う。

Q：経費の抑制もあるかと思うが、ごみ袋をもっと作って単価を安くしていくことも考えてもらいたい。最終地点は同じなのに、四日市と川越でルートに差があることから、四日市に捨てるのではないかと思う。

A：国のプラスチック資源循環戦略はプラスチック製品、容器、包装も含む全てのプラスチック製品が対象。プラスチックの過剰な使用や再生可能資材への代替を位置付けて、環境省の中央審議会が今後の方針を示したものであり、家庭からのプラスチック製容器、包装、製品の排出量を抑えるために、市町村でプラスチック資源の分別回収が求められている。新聞報道等によると2022年度以降に実施できるよう検討しており、現在の分別方法を続けることで新たな制度に円滑に移行できると考えている。

A：四日市で川越のごみが捨てられているという話があったが、川越でも四日市のごみが捨てられている。通過交通にあるステーションに捨てられるケースがあるため、両者で対応の必要があると考えている。

A：ごみ袋については、クリーンセンターで作製をしているが、今のサイズが使いやすいということで、朝日、川越で作製しており、四日市、桑名に比べて数量が少ないため、単価は割高かもしれないが、ごみを入れて、出していただくことを考えると品質、厚さなどはそれなりのものが必要と考えている。

A：四日市では分別をしなくなったことで、ごみの嵩、体積が非常に多く、当初は1.5倍を超えていたと聞いている。落ち着いてきた状況で、1.3～1.5倍、混在については、それほど混在してい

ないと聞いている。嵩が増えた状況で、クリーンセンターが収集するとなると、ごみの収集回数を増やしたり、人員を増やす必要が出てくる。また、現在、県下では朝日町に続いて2番目に住民一人あたりのごみの排出量が少ない。平成30年度の統計資料であるが、1日当たり朝日が528g/人、川越が591g/人であるが、四日市では948g/人となっている。3番目のところと比べて朝日、川越はかなり離れているので、徹底した分別による効果があると考えている。そのため、町としては、現在の収集方法を継続していきたいと考えている。

Q：プラスチック資源循環戦略が2022年以降にどうなるのかを具体的に入れていただくと、わかりやすい。現在、川越町の埋立ごみは四日市で焼却しているが、国の方針により、2022年以降は四日市でも分別する必要があるのか。そうなったときに、川越でも、一般ごみと埋立ごみを一緒にして、2年後、また分けることは大変だと思うので、今のまま続けていく、と受け取った。この文面であると、現在も川越町は、プラスチックを分別していると感じるが、実際は、四日市で焼却している。2022年以降、プラスチックを分けなければならない、その背景がわからない。

A：国の方針であり、現時点で2022年以降に、確実に分別が必要かは未確定であり、2022年に全てのプラスチック製品を分別して市町村が回収するかもわからない状況。

Q：今、四日市と同じ分別方法にしない理由がわからない。2022年以降に分別するのであればそれまでは四日市と同じにし、2022年以降に分別に戻せば良い、という考え方もある。

A：国が2022年以降に目指しているということで、まだ国が具体的に示している訳ではない。将来的には、プラスチック資源は、分別していくことになるため、分別は継続していきたい。

Q：川村委員は、一般ごみと埋立ごみが結局は一緒に燃やされているから分別する必要がないということであるが、それによってごみが増えると四日市に負担金を多く支払う必要がある。分けて持って行って、同じ窯で燃やしていることについては、疑問はあるが、ごみを減らすために分別をしているということではないかと思う。

A：町民の協力でごみを分別していることで、県下でも少ないごみの排出量となっていると思う。

Q：ごみは火曜日、金曜日、木曜日に回収をしているが、回収して持っていくところは、一緒なのに、袋の色で、出したらダメ、ということが問題の一つかと思う。週3回、回収しているのであれば、赤色（一般ごみ）、黄色（埋立ごみ）のどれでも出せる、ということであれば納得すると思う。

A：どの袋でも出せるとなると、混在する可能性も出てくる。一般ごみについては、生ごみがあるので、定期的に回収した方が良いため、週2回。プラスチック製品については、それほど臭いが出るものではないので、週1回としている。

A：一緒に出せるとなると、ごみの体積が増え、1回の収集では困難になるため、人員、車両を増やすなどごみの収集体制を見直す必要がある。経費を抑制するために、今の収集方法を維持したいと考えている。

会長：今までの意見を聞いて、ごみの収集方法について、ご意見がもっともだということで、それが計画案の修正に及ぶことなのか、それともパブリックコメントへの対応、回答の表現を納得できるものに修正する必要があるかのご意見をいただきたい。

Q：パブリックコメントの意見と同じ考え方を持っているのですが、この回答では理解ができない。国から求められていて、分別する必要があるのであれば、仕方ないと思うが、四日市と一緒に燃やしているのに、川越町では分別することがわからない。木曜日の埋立ごみを火曜日と金曜日の一般ごみ

の隙間に入れば、火曜日と金曜日に1つずつとなり、体積は少なくなると思う。今後、四日市も分別する見通しなので、川越町はこのままにしておきましょう、という具体的なことが書いてあればわかる。一度、一緒にして、2年後また分けましょう、ということは、大変なのは理解できるが、2年後、どうなるかわからないのであれば、この文書では、今後のことがわからない。

会長：現時点で、細かい、不確かな情報を出すことはできないが、町の方針の結論としては、経費の抑制と効率的な収集方法を維持したい、ということだと思う。この文章で、それが理解しにくい、ということであれば、修正する必要があると思うが。

Q：この内容からすると、ごみが増えるから、経費が増えるということですよ。

A：ごみの「量」ではなく「体積」。1回にごみ収集車に載せられる袋の数が少なくなることが考えられる。ステーションのごみを1回で積んでいたことができなくなり、2台必要とか、もう一回、回収に行くとかで、経費が余分に掛かってくる可能性がある。

Q：収集回数が変わっても家庭から出るごみの量、体積は変わらないのでは。

環境交通課（加藤）

A：ごみの量としては、四日市市の例を見ると、微増の程度であるが、想定外だったことが、ごみの嵩が増えたことで、そこがネックとなってくる。

Q：四日市市は、破碎ごみとか、資源ごみとかに分けているが、全体の体積が増えたのか。

A：全体もそうであるが、可燃ごみの体積が増えていると聞いている。

Q：全体は変わらないのでは。可燃ごみが増えれば、不可燃ごみが減って、総体積は変わらないと思うが。

A：1回での回収ができなくなる。1日当たりの体積が増えるので、車とかが必要になる。

Q：火曜日、金曜日が増えても、全体としてごみが増えるというイメージがよくわからない。家庭から出るごみの量は一緒に、それをどう分けるかで、経費抑制という話が繋がらない。

A：四日市方式にすると、今、一般と埋立の収集は週3回であるが、2回にすると、1日では回り切れないので、3日間は必要。現時点で、3時から3時半で収集を終えているが、年末年始、ゴールデンウィークなどは、4時半ぎりぎり。何が問題かという、四日市のごみの受け入れが、4時半までなので、そこも含めて収集する必要がある、クリーンセンターの試算によると、今の体制では収集ができない可能性があり、経費が増えるということ。

会長：この町の考え方の文章を読んで、皆さんの意見を伺うかぎり、実績として、四日市市の分別方法に変更した場合、ごみの体積が1.3~1.5倍に増加するというデータがあり、なぜそうなるかの要因の分析は、十分できておらず、共有できていない、聞いても理解できない部分はあるかと思うが、とにかく、体積が増えるデータがある。町の今の収集体制では不十分であり、経費の増加なり、人員を増やさなくてはいけないということがあるので、現状のままと考えているとなると、理解いただけるのではないかと思うが。

Q：四日市と同じような状況になることはわかるが、前半の部分の今後の話が、一町民ではわからない。今後、分別回収になる前提であると、伝わるかと思う。前半部分の文章を読んだときに、今は一緒にしていると思ってしまう。

Q：平成28年4月1日以降のごみの捨て方についてということで、広報か何かで、「当面、維持、継続します」という内容があって、その理由として、川越町は非常にマナーが良くて、環境意識が高

く、ごみの発生を抑制しようということもあり、県内で1位、2位を競うごみの少なさである。個別具体的な内容でいくと、四日市との契約の話もあるため、あまり踏み込んだ表現にしない方がいいと思う。四日市のクリーンセンターができたが、町としては〇〇の理由で分別を進めているので、理解していただけるよう、回答については『引き続き分別をやることで町民の環境意識を高めるためにも必要』ということを入れてはどうか。

会長：資源循環型社会を創っていくという方向性は変わらないので、やり方は、市町村によって違ってくるかもしれないが、町としては、分別をすることで、環境意識を高めることにも繋がり、引き続き分別を維持していく考え方である。

Q：分別を継続している理由や総合計画の考え方を盛り込み、「引き続き、環境に対する住民意識の向上やごみの発生抑制を目指すために」という内容で、ご理解いただきたいことを明記してはどうか。

会長：国のプラスチック資源循環戦略も踏まえ、町としても分別を継続していく考えであることが、皆さんの意見も聞いて、この文章よく読むとわかってくるので、このままの文でも良いかなとも思う。その他のご意見はいかがか。

A：国の戦略だけではわかりにくいので、国が制度を目指していることなどの一文を入れていくことで対応をしたいと思う。現状として、県内でも2番目にごみの排出量が少ないこと、分別の意識が高いこと、先ほどの四日市市のクリーンセンターができたときの町の方針を冒頭に追加することでご理解をいただきたい。

会長：この場で示せないが、皆さんの意見を含め、事務局で修正案を作成し、それを会長に一任していただき、公表するということが良いか。

⇒異議なし

会長：計画の内容を修正するものではない、ということで、前回この会議で承認をいただいた内容をそのまま最終案ということで、ご異議はありませんか。

⇒異議なし

会長：計画（案）の承認をいただいたということで、パブリックコメントの①のごみについては、会長と事務局に一任していただいたので、修正をさせていただきます。

2) 第7次川越町総合計画（案）の答申（案）について

会長：これまで、6回の審議会を開催し、皆さんから多くの意見をいただき、これまでの意見は計画書に盛り込まれているが、今後、この計画をどう実践につなげていくかが重要になる。まず、実行していくためには、我々、町職員だけでなく、広く町民への計画の周知が必要である。それと、計画の実現に向けて、自助、共助、公助のまちづくり、協働のまちづくりを進めていけるように、自助、共助でやっていく中で、公助の支援をお願いしたい、ということ。また、スマートシティと聞くと、行政のオンライン化、デジタル化により無機質なまちになるイメージがあり、それに対して、懸念、抵抗も出てくるため、人と人とのつながりを大切に温かみのある行政にしていくこと。さらに、新型コロナウイルスやSociety5.0などの時代の変革に柔軟に対応できる行政であること。先ほどの話でもあったが、ごみ処理など、町単独ではなく近隣市町との連携、また、町民との連携

を進めていくことも重要である。最後は、P D C Aと言われるように、計画の進捗管理を行い、問題があれば改善していくことを付帯意見として付けていければと考えている。

会長：これまで皆さんから多くの意見が出たので、計画の実現に向け、町に配慮していただきたいことと付帯事項として入れたいと考えているがいかがか。

⇒異議なし

会長：答申案を配るため、ご確認をお願いしたい。また、事務局で読み上げてもらいたい。このような文案であるがいかがか。

Q：基本的に良いと思うが、4番目の Society5.0 は皆さんに馴染みがないため、もう少しなじみのある表現にしてはどうか。例えば、「新たな社会を指す」などを前に入れたらどうか。

会長：「新たな社会を指す Society5.0 の進展への対応など、時代や社会の変革に対して」という形で修正したい。

Q：5番は行政運営とあるが、財政も紐づいてくるため、行政には財政という表現も含まれているかと思う。それも含め、行政運営としているのであればいいかと思うが、基本計画でも行財政運営を基本施策に使っているため、お金に関するところは、行財政運営にしてはどうか。

会長：行政運営は3、4、5で使っているが、3は財政に影響しないため、4、5を行財政運営にすることでいかがか。

Q：議会でも町民に対して説明するが、近隣市町との連携も含めて、施策として実行するには、お金が必要で、行政運営だけでもお金のことも含まれると思う。委員の皆さんが、行財政のほうがわかりやすいのであれば、付け加えてもいいかと思うが、一般に行財政運営は馴染みがない。答申は町長に提出するため、一般の方に出すものではないので、行政運営でも財政を含んでいることは理解していると思うがいかがか。

Q：それであれば構わない。

会長：行政、財政をまとめて、行政運営ということで、財政の意味も含まれているということで、ここでは行政運営に統一したい。

Q：4番目に新型コロナウイルス感染症とあるが、ここだけ具体的に書いてあり、今は、コロナが問題となっているが、今後、違うことがあった場合を考えると、別の言い方がいいと思うが。

Q：5年後、10年度どうかはわからないが、答申なので、今の時点で考えられることで、この表現でいいかと思うが。感染症も変わっているかもしれないので、幅を持たすこともいいかと思うが、10年後に振り返って、この時代は、新型コロナウイルスだったのかという時代背景も見えるので、答申だからいいかと思うが。

会長：コロナ禍での策定で、その時、その時代だったということがわかって良いと思う。

Q：別の名前も難しいと思うが。

Q：計画なので、先を見通したほうがいいと思ったが、答申なので、ということであればいいと思う。

Q：将来はわからないので、新型コロナウイルスに限定せず、幅を持たせるのもいいかと思うが、現時点で5年後、10年後をどうしたらいいかを考えるところなので、いいかと思うが。

会長：4項目目に「新たな社会を指す」という文言を追加し、2行目の「新たな」を削除し、答申書とすることでよいか。

⇒異議なし

会長：答申書を準備するため、休憩をはさみたい。

《休憩》

会長：では審議会を再開したい。修正し、答申（案）を答申としたので確認をお願いしたい。

事務局：答申については、庁議室で行う。委員の任期が、委嘱日より令和3年3月31日となっている。この後の答申で、本日の議事は終了となる。答申が終わると、諮問にかかる事項が終了となるので、委員の任期を本日までとさせていただくのでよろしくをお願いしたい。

3. 答申

事務局：会長より第7次川越町総合計画（案）に対する答申をお願いしたい。

《会長から町長への答申～答申書の読み上げ～》

事務局：それでは、町を代表して町長より一言お礼を申し上げる。

町長

- ・委員の皆様には、日頃より町政運営にご理解とご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。昨年11月に第7次川越町総合計画の策定に向けて、諮問させていただき、委員の皆様には約1年間の長きにわたり、ご審議いただいた。
- ・この間、新型コロナウイルスの感染拡大により、日常生活においては、新しい生活様式の実践と定着、働き方というところではテレワークの普及・推進など、これまで経験をしたことのない変化があった。
- ・総合計画の策定過程においても、書面会議という対応をさせていただき、委員の皆様のご協力により、大幅なスケジュール変更もなく、12月議会に上程させていただき運びになっている。
- ・これまで慎重なご審議により、基本構想をはじめ、重点施策、各部門別計画に対し、安全・安心の原点である防災・減災の観点、また、地域福祉、子育て、教育など、幅広い分野にわたり様々な観点から貴重なご意見をいただいた。
- ・1年間にわたり総合計画の策定を進め、この度、答申をいただいた第7次総合計画を新たなスタートラインとして、まちの将来像である「つながる笑顔 ず～～と暮したい町 かわごえ」の実現に向けて、町職員はもとより、町民の皆様とともに、まちづくりを進めて参りたいと考えている。
- ・今回の審議会をもって、総合計画審議会としては一区切りとなるが、委員の皆様におかれましては、引き続き町政運営にご理解とご協力をお願い申し上げます。また、季節がら体調を崩しやすい時季のため、健康に留意されますようお願いして、お礼のあいさつとさせていただきます。

事務局：これをもって、第7回川越町総合計画審議会を終了したい。長期にわたり総合計画の策定にご協力をいただきありがとうございました。

以上